発行者
発行日　十二月十三日
年　二〇〇六

月夜のでんしんばしら

（宮沢賢治）

夢の世界へ……

空には、うろこ雲がたちこめる、ある夜、少年が線路ぎわを、一人で歩いていた。

ガタンとシグナルが下がり、夢の世界がまくを開け線路ぎわを歩いていました。

月にてらされ、数えきれないほどの、電しん柱が、元気よくこうしんを始めます。

そして、少年は、ふしぎなおじいさんと出会うという、ふしぎでおもしろい一冊です。

あなたが、昔、想像して、ふしぎな話をき書いたのです。

した世界を宮沢賢治はかされます。

絵も、とってもユーモアが、あふれて、この本にぴったりです。

あなたも、昔、想像した、夢の世界を、味わってみませんか？

登場人物紹介

電しん柱　元気に行進して、軍歌を歌う。

恭一（少年）　ふしぎな体験をする。

ふしぎなおじいさん　恭一に会い、ふしぎなことを言う。

あらすじ

ある夜、恭一が、線路ぎわを歩いていました。

シグナルが下がり、でんしんばしらたちは、元気に軍歌を歌いながら、勢いよく行進を始めます。

「ドッテテドッテテテドッテテテド」

むこうから、おじいさんが、やってきて、ふしぎな話をします。

そうしているうちに、遠くの方から、モアが、あふれて、この汽車が、ゴゴゴーとやってきてミミ。

そして、シグナルどの作品も、ファンタジーで、夢の世界につれて行かれる。

心にのこる場面

ぼくは、一番心に残った所は？と聞かれると、でんしんばしらが、元気よく、行進するところと答えます。

ぼくは、どんどん夢の世界にひきこまれて、本当にぼくが、今、体験しているみたいで、ハラハラドキドキします。

「ドッテテドッテテテドッテテテド」

と口ずさんでしまいます。

こんな夢のような世界が、現実にあったらいいなあと、いつも思ってしまいます。

宮沢賢治について

宮沢賢治は、日本で有名な、作家です。

代表作は、「銀河鉄道の夜」や、「よだかの星」などで、数くの作品を残しています。

この作品で賢治はミミミ

ぼくは、電気総長とは月ではないかと考えました。

そして、月がしきをとって電しんばしらが軍隊。

どんな物にも命がある。

あまくみてはいけないと伝えたかったんだと思う。

感想　汽車がやってきてからどうなったのでしょう？

是非読んでみたいですね。